

2023年3月20日

会社名 東邦レマック株式会社
 代表者名 代表取締役社長 笠井庄治
 (東証スタンダード市場 コード番号 7422)
 問合せ先 取締役管理本部長
 兼総務部長 高野裕一
 (TEL. 03-3832-0132)

上場維持基準の適合に向けた計画に基づく進捗状況について

当社は、2022年12月時点において、スタンダード市場における上場維持基準に適合しない状態となりました。下記のとおり、上場維持基準の適合に向けた計画を作成しましたので、お知らせいたします。

記

1. 当社の上場維持基準の適合状況及び計画期間

当社の2022年12月時点におけるスタンダード市場の上場維持基準への適合状況は、以下のとおりとなっており、流通株式時価総額については基準に適合していませんが、2024年12月期には上場維持基準を充たせるように各種取組を進めてまいります。

	株主数	流通株式数	流通株式時価総額	流通株式比率
当社の状況 (基準日時点)	770人	3,037単位	8.7億	59.3%
上場維持基準	400人	2,000単位	10億	25%
計画期間 【適合しない項目について記載】			2024年12月20日	

※ 当社の適合状況は、東証が基準日時点で把握している当社の株券等の分布状況等をもとに算出を行ったものです。

2. 上場維持基準の適合に向けた取組の実施状況及び評価 (2021年12月～2022年12月)

当社は、2021年12月23日に公表した「新市場区分の上場維持基準の適合に向けた計画書 (以下、当初計画)」において、上場維持基準の適合に向けた基本方針を定めました。

<2021年12月23日公表の当初計画>

<https://toho-lamac.co.jp/ir-doc/pdf/2022/revivalplan2022.pdf>

基本方針では、中期3ヶ年(2022年1月～2024年12月)経営計画書『レマックリバイバルプラン』に沿って改革を進め、ソフトウェアの市場に新たなサービスを創造し、サステナブルな社会に向けてSDGs達成に向けた取り組みの推進と、株主様への適切な情報発信と「経営の見える化」に努め、当社の持続的成長と利益水準の改善による中長期的な企業価値の向上を図り、その結果、株価の向上による流通株式時価総額の適合を目指してまいります。当該基本方針に基づき、それぞれの課題について各種取り組みを設定しておりますが、それらの取り組みの実施状況及び評価は以下の通りです。

(1) 中期経営計画「レマックリバイバルプラン」の進捗

当初計画のとおり、中期経営計画に基づいた事業活動を行い、この結果として、2022年12月期の業績は、売上高は6,376百万円(計画比106.3%)、営業損失は251百万円(計画比201百万円損失増)となりました。

売上高については計画を上回ることができましたが、営業利益については為替変動による仕入れ価格の上昇への対応が遅れ、総利益の低下を招く結果となりました。

現在、お取引先様のご協力のもと価格見直しを実施しており、改善を進めております。

尚、中期経営計画のそれぞれの活動の詳細につきましては検討段階を含めご報告できる内容には至っておりません。ご報告できる段階で速やかに開示させていただきます。

(2) IR 活動の強化

当初計画では、IR 活動の強化として、下記活動等を検討しておりました。

- ・希望される株主様とリモート会談を実施
- ・株主の皆様との大切なコミュニケーションの場である懇親会の再開
- ・株主の皆様への新作展示会のご招待または社内ショールーム見学
- ・社内倉庫の見学ツアー

コロナ禍ということもあり、いずれも実施できておりませんが、感染状況をみながら実施を検討してまいります。

(3) 株主還元施策

当該期間（2022年1月～2022年12月）において、基本方針である株主の皆様への長期的な利益還元を重要と考え、安定かつ充実した配当を行う方針に従い、3月に57円、9月に53円の配当を実施いたしました。

3. 今後の課題と取組内容

上述のとおり、2022年12月20日時点において、当社がスタンダード市場の上場維持基準に流通株式時価総額が適合しておりません。要因として、営業利益面で計画を下回っているため前年基準日より株価水準が下回っておりますが、引き続き、中期3ヶ年計画（レマックリバイバルプラン）に沿って取組を推進してまいります。

以上の状況を踏まえた今後の課題と取り組みにつきましては、当初計画からの変更はなく、2024年12月期には上場維持基準を充たせるように各種取り組みを進めてまいります。詳細につきましては、当初計画をご確認ください。

以 上